

校 歌

作詞 工藤正勝
作曲 岡野貞一

5 にししゅうわれいのーなすのみねや
さーらばわがともふるわみずや
かいみのいたぶきなかるおせおいしうらんにの
のほるけむりおのいそつかしへく
あつきちしおをいそそぐべ
きじたんぶくまのがれみはずのうじろて
きけいよきのれきしんのはあおともとかめるて
りゆうふうかれかゆおる一の二くみねじよばう
き
13
17
21

(一) 西秀麗の那須の峰
のは いつか
沖る煙の莊嚴しく
けんこう いろど
清き歴史の跡とめて

神の息吹か大空に
いふき
北阿武隈の水の色
ふよう
流風薰る小峰城
かお

(二) 見よ県南の一聖地
みよ きそこ
扶搖の風を起すべき
かざ
驕す進取の旗の手に

文武に競う多士が意氣
きき
その剛健の気を負いて
指すや理想の星の影

(三) 春乾坤に回りては
けんこん めぐ
秋八絃を彩れば
はつこう いろど
鳴呼蛟龍の伏す処
あこうりょう ところ

花の波立つ関の湖
うみ
風も文ある小鹿山
あや おじか
茲に五彩の雲ぞ湧く
ここ さい

(四)さらば我友奮わずや
かわ
熱き血潮を注ぐべき
けいせい
経世の任は重かるを

意気に高鳴る青春の
とき
時運の流れ早うして
来れ雄飛の雲呼ばん

作詞者

工藤 正勝

本校第二代校長（大1.2.4.9～昭4.6.6）。
熊本県出身。

白中生を登町の竜、登龍健児と見立て、校庭南方の風神山を登龍山と名付けた。

作曲者

岡野貞一

音楽家、作曲家。鳥取県出身。明治33年東京音楽学校卒業、同校教授を勤めた。「故郷」「春の小川」「春がきた」「臘月夜」「桃太郎」等多数作曲した。